

高知市男女共同参画推進プラン 2021  
中間評価集計表

## 高知市男女共同参画推進プラン2021 指標の推移

●令和3年度～令和5年度

基本目標	指標	計画策定時 (R元年度)	3年度	4年度	5年度 (中間年度)	6年度	7年度	最終目標 (中間目標)	
1 一人ひとりの社会をつくり、人権が尊重される	市の審議会等で女性委員がない審議会数	24会 〔138会中〕	15会 〔115会中〕	13会 〔120会〕	15会 〔119会〕	[ 会]	[ 会]	0会以下 〔5会以下〕	
	市職員の女性管理職 (課長補佐以上)の割合	部長副部長	11.4%	8.9%	9.5%	15.0%	%	%	14%以上 〔13%以上〕
		課長	15.7%	19.1%	21.6%	20.8%	%	%	22%以上 〔19%以上〕
		課長補佐	39.2%	46.8%	44.8%	41.5%	%	%	45%以上 〔44%以上〕
男女の地位が「平等」と回答した人の割合	社会全体 15.3% 他7項目	—	—	—	%	—	増加		
2 DVのない社会をつくり、 セクシュアル・ハラスメントをなくする	DVについて誰(どこ)にも相談しなかった人の割合	65.1%	—	—	—	%	—	30%以下 〔—〕	
	DVを内容まで知っている人と答えた人の割合	44.1%	—	—	—	%	—	70%以上 〔—〕	
	セクシュアル・ハラスメントを内容まで知っている人と答えた人の割合	43.0%	—	—	—	%	—	70%以上 〔—〕	
3 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しよう	待機児童数	34人	11人	3人	5人	人	人	0人 〔10人以下〕	
	高知市男女共同参画推進企業表彰の表彰企業数	3社	8社	6社	6社	社	社	毎年3社以上 〔毎年3社以上〕	
	高知市男性職員の育児休業取得率	9.9%	17.9%	32.4%	48.1%	%	%	85%以上 〔22%以上〕*	
	高知市職員の技術職に占める女性の割合	9.1%	11.4%	11.3%	12.0%	%	%	15%以上 〔12%以上〕	
	社会資源「集いの場」状況	630	610	602	597			705以上 〔675以上〕	
4 地域で、男女共同防災	自治会長に占める女性の割合	13.7%	15.4%	14.1%	14.7%	%	%	25%以上 〔22%以上〕	
	防災士認定登録者に占める女性の割合	30.2%	30.9%	34.1%	34.2%	%	%	50%以上 〔40%以上〕	
5 生涯にわたる健康生活を 充実させよう	健康寿命(65歳の平均自立期間)	男性17.47年 女性20.97年	男性17.65年 女性21.39年	男性17.77年 女性21.78年	男性17.68年 女性21.89年	男性 女性	男性 女性	男性18.90年 女性22.89年 〔男性17.71年 女性21.21年〕*	
	子宮頸がん検診受診率	15.1%	14.2%	16.1%	16.5%	%	%	20%以上 〔17%以上〕	
	乳がん検診受診率	18.8%	17.3%	19.0%	19.3%	%	%	22%以上 〔20%以上〕	
	低出生体重児出生率(出生百対)	10.0 (H29)	11.1 (H31)	9.8 (R2)	10.0 (R3)			9.5以下 〔9.5以下〕*	

\*高知市男性職員の育児休業取得率、健康寿命(65歳の平均自立期間)、低出生体重児出生率の3項目については、令和6年度に最終目標値を同項目を目標値に掲げる他計画が見直されたことから変更した。

# 基本目標1 一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう

## 【推進委員会評価】

全体評価 (No.①～⑤の平均)		No.	評価項目	評価 (委員会平均)	評価の分布	
2.96						
		①	必要性 (取組の方向性での位置付け, 市民ニーズの傾向)	3.6	4 3 2 1	7人 5人 0人 0人
		②	有効性 (活動指標, 活動内容)	3.0	4 3 2 1	2人 8人 2人 0人
		③	効率性 (実施方法, コスト, 費用対効果)	2.7	4 3 2 1	0人 8人 4人 0人
		④	数値目標の達成状況	2.5	4 3 2 1	0人 6人 6人 0人
		⑤	男女共同参画の視点での工夫や配慮	3.0	4 3 2 1	1人 10人 1人 0人

(評価の目安)  
 4・・・良好  
 3・・・概ね良好だが改善の余地あり  
 2・・・不十分  
 1・・・全く不十分

### 評価コメント

取組に問題はないが、庁内で完結できる取組が目標を達成していないことで、全体の評価を下げる要因になっている。

- ・レインボースクールの取組はとても良いと思う。
- ・娘が小学校から「わたしもあなたも大切に」のリーフレットをもらってきたが、特に授業で使ったわけでもなく説明もなく他の手紙と一緒に入っていた。せっかくいい物を作成しているのもっと活用できるように働きかけがあればいいと思う。

各役職段階に占める女性職員の割合について、女性部長副部長、課長の実績値は年々上がってきているが、課長補佐は下がっているのが気がかり。その原因を分析して、さらなる対処が必要だと思われる。

自課評価において概ねAが多いが、事業No.12「各役職段階に占める女性職員の割合向上」が3年連続Cとなっている。上昇傾向とのことだが改善が必要と思われる。

女性の上位職への参画が見られるが、今後に向けて数値上昇の検討が必要かと思う。

### 意見・提言等

レインボースクール事業は、実施予定の12校に対して要望が34校もあるのは、効果が高いと思われるので、注力する取組である。

審議会委員の女性割合は、もう少し働きかけと自助努力が必要。

審議会の男女比率向上については、全庁横断的に抜本的な意識改革を進めていただきたい。

市の事業で女性登用が進まない状況が長期間続くと市民への啓発も効果が期待できなくなる。例えば各審議会の設置条例に女性委員を入れるように改正するなど、市として解決に向けた具体的な取組が必要。

審議会等の女性登用については各課からの理由等を拝見してもっと改善の余地はあると考える。例えば、審議会の落札方式審査会は契約課担当であるが、司法書士等の士業も学識経験者になるのではないかと考える。依頼先の関係団体の見直しや専門知識を有する者の範囲をもう少し広くとらえてもよいのではないかと考える。委員会に参加することが勉強していくきっかけになると思う。

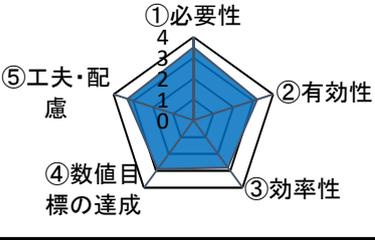
SDGs, ジェンダー平等, LGBTsなど意識の高まりに合わせてアップデートされた啓発がなされていると評価できる。他方で、デジタルツール活用, 人が集まる場所での広報の推進, 紙媒体によるコストの有効性を検討する必要があることなどまだ工夫の余地があると考えられる。様々な工夫の結果として数値目標が達成されることを期待している。

講座の広報としては、ソーレが開催する講座の案内をPeatixアプリを活用して周知しており、参考になるのではないかとと思う。

選択的夫婦別姓(生まれながらの姓を使用する権利について)に対する社会的関心が高まっているが、引き続き、扱って頂けたらと思う。

## 基本目標2 DVやハラスメントのない社会をつくりましょう

### 【推進委員会評価】

全体評価 (No.①～⑤の平均)		No.	評価項目	評価 (委員会平均)	評価の分布	
3.14						
		①	必要性 (取組の方向性での位置付け, 市民ニーズの傾向)	3.5	4 3 2 1 0	6人 6人 0人 0人
		②	有効性 (活動指標, 活動内容)	3.2	4 3 2 1 0	4人 6人 2人 0人
		③	効率性 (実施方法, コスト, 費用対効果)	2.8	4 3 2 1 0	0人 10人 2人 0人
		④	数値目標の達成状況	2.9	4 3 2 1 0	1人 8人 2人 0人
		⑤	男女共同参画の視点での工夫や配慮	3.3	4 3 2 1 0	3人 9人 0人 0人

(評価の目安)  
 4・・・良好  
 3・・・概ね良好だが改善の余地あり  
 2・・・不十分  
 1・・・全く不十分

### 評価コメント

数値目標は数値が出ていないので, 何をもって評価するのか事務局に任せる。

No.22「相談事業」について, 男性からの相談も受け入れる体制がよい。

声を上げられない人に, 相談やシェルターの情報が届いているのか。検証は難しいが, 事業を進める上で念頭に置くべき。

DVや児童虐待等, 直接関係ないと入ってくる情報も少ないと思うが, いざ当事者となった時にどうすればいいのか困る人も多くいるのではないかと。

自課評価では12事業中, Aが9, Bが3と良好な結果となっている。DVやハラスメントを許さないという機運の高まりの中で, 今後も目標達成に向けた取組を期待する。

### 意見・提言等

DVや児童虐待は根絶しないといけな問題で, 重要な取組である。民間に頼るだけでなく, 防止・支援など窓口を一元化して(子育て支援のようなニューボラの取組), 行政として即応できる組織・体制も今後検討すべきではないかと思う。

最近, 「教育虐待」ということも言われ始めている。その中には, 「女性はあまり高学歴でなくてよい」という虐待の例もある。今後は, こうした側面も考えないといけなのではないかと。

非常に重要な視点を社会に投げかけて頂いていると思う。今後は, DVの予防教育(学校との連携, 性的同意などを考える研修等)も大事になると思う。DVを人権問題と考える若者(主体)を育てることが必要かと思う。

ハラスメントもDVも人間の尊厳を傷つけ, 生産性を阻害する。誰かがDVやハラスメントを我慢することは社会全体のマイナスにつながるという認識の下で, 全体で取り組むべき問題である。そのような問題意識を共有し, 目立つ公共空間にハラスメントやDV禁止のポスターを貼りまくり, 強制的に視界に入れることも有益だと思う。高校や大学にもポスターを提供してはどうか。DVは犯罪であり, 不法行為であること。DVが織り込まれた人間関係は正常ではなく, 自分事でも他人事でも容認してはいけななこと。被害者だけでなく加害者も不幸になることをより強くメッセージとして打ち出す方法を検討していただきたい。

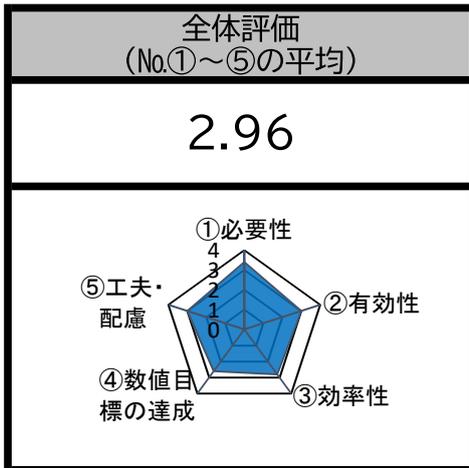
学校ではタブレットの活用が進んでおり, 小学生も毎日タブレットの持ち帰りをしている。小学生に配布されている「あみのめせかいノート」はあまり活用されていないと子どもからの話であった。情報モラル教育はぜひ進めていただきたい。

ネットトラブルは低年齢化もしていると思うので, 学校での指導もより必要だと考える。

県や関係機関等と連携し地道に啓発を継続することが必要と思う。市民に身近な市として, 様々な相談に応じていくことを広く周知していくべきでは。そのような活動を通じて, 新しい課題が見えてくるのでは。

### 基本目標3 家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しましょう

#### 【推進委員会評価】



(評価の目安)  
 4・・・良好  
 3・・・概ね良好だが改善の余地あり  
 2・・・不十分  
 1・・・全く不十分

No.	評価項目	評価 (委員会平均)	評価の分布	
①	必要性 (取組の方向性での位置付け, 市民ニーズの傾向)	3.4	4	6人
			3	5人
			2	1人
			1	0人
			0	0人
②	有効性 (活動指標, 活動内容)	3.0	4	2人
			3	8人
			2	2人
			1	0人
③	効率性 (実施方法, コスト, 費用対効果)	2.8	4	1人
			3	8人
			2	3人
			1	0人
④	数値目標の達成状況	2.6	4	2人
			3	3人
			2	7人
			1	0人
⑤	男女共同参画の視点での工夫や配慮	3.0	4	3人
			3	6人
			2	3人
			1	0人

評価コメント
男女共同参画社会に向けた基本・基礎となる取組だと思う。目標をみると、百歳体操、認知症カフェ、宅老所、百歳交流大会等が、ジェンダー平等の実現にどう結びついているのか、混乱する。百歳体操に参加することがジェンダー平等実現の取組であるということに参加者が理解しているのであればいいが、単に健康のため、長生きのためという目的で参加しているのであれば、取組としては違うようにも思う。
待機児童0というのは評価できる。子どもの数が少なくなってきた影響もあるか。
市役所の技術職の割合は、今後に期待する。
女性の就業支援は、PCだけでなく、コミュニケーション等があっても良いと思う。
13事業中、Aが2、Bが10、Cが1と5目標の中で自課評価が低い内容となっている。No.36「ひとり親家庭等の相談及び就業自立支援」はC評価となっているが、相談件数のやや減少と就職率40%(目標値60%)がその要因と思われるが、相談に対する満足度95%超という良い結果も出ているので目標達成に向けた取組に期待する。
意見・提言等
ファミリーサポートも上手く機能している。費用面での助成があると尚良い。
No.32「ファミリー・サポート・センター事業」は、国の補助金活用で利用者負担の軽減をすともっと良い効果が出ると思われる。
社会が変わっていかないと劇的な改善は期待できない分野だが、地道な取組がなされていることは評価できる。
No.27「男女共同参画推進企業表彰」、No.28「男性職員の子育て参加の促進」によって社会をリードする動きを加速させるとともに、ファミリー・サポート・センター事業についても補助金施策を充実させる等して、移住政策ともコラボした取組を進めてはどうか。
男性職員の子育て参加促進において、育児休業復帰支援プランを活用した面談の実施は有効だと感じた。子どもが生まれた男性職員や所属長に各種制度の周知を行うことはもちろん、早い段階で配偶者の妊娠の報告があればより育児休業の取得に向けたサポートができると思う。報告があれば育児休業取得の意向確認も必要となってくるので、報告がしやすい環境づくりも大切だと思う。
市男性職員の育児休業取得率が年々上がり、成果が見られる。しかし目標値にはまだ大きく届いていないので、今後も取得しやすい職場の環境整備が必要だと思う。
市で積極的に女性登用や男性職員の育児参加に取り組むことが必要である。制度の活用やどのように課題解決を進めたのかなどその状況等を公表することで、制度の充実につながったり社会に広がっていくと思う。
女性が少ない職場では、男性の労働条件が厳しい場合がある。今後、男性が多い職場においては、男性の労働時間や心身の負担はどうか等、男性の働きやすさについて調査するなど一つの案ではないかと思う。
職場での理解も段々と進んでいると思うが、やはり子育てや介護となると女性の負担が多いと感じる。そのためフルタイムで働くのが難しく、パートやアルバイトという女性も多い。そこで男女の賃金差も出てくるので、育児、介護への支援は力を入れて継続してほしい。
ワークライフバランスの推進においては、仕事と介護の両立の視点も重要ではないか。
No.38「女性消防吏員増加に向けた取組」などの取り組みは、行政が果たす役割として重要だと考える。

基本目標4 地域で、防災で、男女共同参画をすすめましょう

【推進委員会評価】

全体評価 (No.①～⑤の平均)		No.	評価項目	評価 (委員会平均)	評価の分布	
2.82						
		①	必要性 (取組の方向性での位置付け, 市民ニーズの傾向)	3.3	4 3 2 1	6人 4人 2人 0人
		②	有効性 (活動指標, 活動内容)	2.8	4 3 2 1	1人 7人 4人 0人
		③	効率性 (実施方法, コスト, 費用対効果)	2.8	4 3 2 1	1人 8人 3人 0人
		④	数値目標の達成状況	2.4	4 3 2 1	0人 5人 7人 0人
		⑤	男女共同参画の視点での工夫や配慮	2.8	4 3 2 1	3人 4人 5人 0人

(評価の目安)  
 4・・・良好  
 3・・・概ね良好だが改善の余地あり  
 2・・・不十分  
 1・・・全く不十分

評価コメント

まだまだ男性社会の様相が色濃いという実情が最もよく反映された数値・結果が表れているといえるのではないだろうか。  
 No.47「人材育成事業(女性防災プロジェクト)」に関しては休眠預金(助成金)を活用するなど、外部資金を利用して女性防災リーダーの育成において大きな効果を挙げている。D評価のNo.40「地域コミュニティ再構築事業」とC評価のNo.42「消防団の充実強化」はコロナ禍の影響や全国的な担い手不足の中にあることは理解できるが、一層の取組を期待する。

意見・提言等

防災部分での女性参画は一定進んできたが、災害現場等女性が参加しづらい場面があるようなので、さらに必要な人材が参加できるよう環境整備してほしい。  
 女性の視点から地域活動・防災分野への女性の参画はかなり進んできたように見受けられる。その中でも、いつも女性は炊き出し係というような役割分担が固定化しないように、性別に関係なく活動がスムーズにできる方が良い。トイレ、体調の管理など防災には女性ならではの視点が必要なので、エリアに関係なく進めていただきたい。  
 避難所運営では女性への性犯罪や生理用ナプキンの配布がなかったりと聞く。被災地訪問では実際に困ったことを聞いてもらい、どのように対策をしていくか検討してほしい。  
 自治会組織の役員に占める女性の割合が一定数を超える場合には補助金を得られるようにする等の取組はあり得るだろうか。  
 自治会長に占める女性の割合が基準値よりも減少してきているのが、気がかりである。今年度の広報で女性自治会長の紹介があったが、今後も女性会長の声を広く市民に届けることにより、女性会長になるハードルを下げる取組を継続していただきたい。  
 スポーツに関して、審判員に占める女性の割合が一定数を超える場合に何らかの報奨的措置をとることはあり得るだろうか。国際レベルの男性サッカーで女性審判と一緒に走りながら裁いているのをテレビで見るが、そういう視覚的効果は大きいと思う。

## 基本目標5 生涯にわたる健康生活を充実させましょう

### 【推進委員会評価】

全体評価 (No.①～⑤の平均)		No.	評価項目	評価 (委員会平均)	評価の分布	
2.88						
		①	必要性 (取組の方向性での位置付け, 市民ニーズの傾向)	3.2	4	3人
					3	8人
					2	1人
					1	0人
					0	0人
		②	有効性 (活動指標, 活動内容)	2.8	4	1人
					3	8人
					2	3人
					1	0人
		③	効率性 (実施方法, コスト, 費用対効果)	2.8	4	0人
					3	10人
					2	2人
		④	数値目標の達成状況	2.8	4	0人
					3	9人
					2	3人
		⑤	男女共同参画の視点での工夫や配慮	2.8	4	0人
					3	10人
					2	2人
					1	0人

(評価の目安)

4・・・良好

3・・・概ね良好だが改善の余地あり

2・・・不十分

1・・・全く不十分

#### 評価コメント

条例第18条に基づく取り組みだと思っているが、条例の「…(男女が)対等な関係のもと、妊娠、出産その他の性と生殖に関する事項について、互いの意思を尊重し、生涯にわたり健康な生活を営むことができる…」との関連性を改めて考えたとき、取組に違和感を感じる。子宮頸がん、乳がん検診、低出生体重児と、男女共同参画とどう結びつけて考えたらいいのか、教えていただきたい。

時代、性別に関係なく、各自の判断で行うことであり、ここで目標にすることではないと思う。

No.48「さまざまな世代やライフスタイルに応じた健康づくりのための講座等の開催」についてコストの割に成果が上がっていないのが残念だと感じた。

幼児検診の受診率が高いのはいいと思う。受診可能期間の緩和や日曜検診等工夫もされている。

10事業中Aが3, Bが5, Cが2と達成度は高いとは言えない。

C評価のNo.48「さまざまな世代やライフスタイルに応じた健康づくりのための講座等の開催」、No.50「スポーツ推進事業」はコロナ禍の影響でやむをえない側面はあるものの、引き続きの取組を期待する。

No.53「こころの相談窓口」に関しては、目標2,800に対して6,290と2倍以上の達成率となっている。SNSの効果とは言え、元の目標値の設定についても検証していただきたい。

#### 意見・提言等

健康づくりに関しては様々な事業が行われていると思うので、より広報等を充実してほしい。

生涯健康であることに向けての取組としてNo.48「さまざまな世代やライフスタイルに応じた健康づくりのための講座等の開催」は評価されると思う。「さまざまな世代や…」とあるが、もし世代に偏りがあつたとすれば、少ない世代の方が参加しやすい方法への検討などもしてはどうか(例:オンラインなら参加しやすい等、あれば)。

ライフステージにおける心と身体の健康においては、女性特有の健康課題の視点も大切ではないかと考える。

平均寿命の差が男女で6歳程あるが、健康寿命の差は男女で3歳も無い。女性の筋力が少ないからだとも言われている。こうした観点からも、健康で過ごせるような取組が今後は必要ではないか。

## その他全体に関するもの

評価コメント
<p>今回の中間評価を行うにあたって、再度担当課が提出した「個別事業実施状況報告(点検シート)」を再点検した。そこで、各課のCheck(点検)・実質的には検証(達成状況、その要因)に注目し、中間評価を行った。そこで気が付いたのは、各課からA評価以外の評価がかなり多いということだ。事業の評価であるので、A評価が望ましいことは当然だが、基本目標3(家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しよう)のNo.36「ひとり親家庭の相談及び就業自立支援」や基本目標4(地域で、防災で、男女共同参画を進めよう)のNo.40「地域コミュニティ再構築事業」など、容易には成果が出しにくいと思われる事業に積極的に取り組んでおり、その結果、「概ね達成」(B評価)や「(目標を)少し下回った」(C評価)が出ている。A評価が出なかったことは残念だが、目標に大きく近づいたことは成果と思われる。こうしたチャレンジ的な試みは大事だと考える。今回は中間評価であるので反省点を生かし、一層目標に近づくことを期待する。</p>
<p>コロナ禍の影響で目標達成できずC評価になった事業も多いように思う。現時点でコロナの感染が増えている状況であり、重症化率は低くなくても出口が見えない状況となっている。抜本的な対策は難しいかもしれないが、非接触型に移行できる事業の検討も必要かもしれない。</p>
意見・提言等
<p>事業数も多く、全てが目標どおりは難しいが、役職に占める女性職員の割合や審議会等の女性登用、男性職員の子育て参加の促進等、庁内で取り組みできるのはできるものは目標達成してほしい。</p>
<p>平成17年に条例が制定されて20年の取組である。効果がでるまでには息の長い取り組みであることは理解しているが、20年の節目として、取組、成果をしっかりアピールできるよう、一番わかりやすい数値目標の達成に注力してもらいたい。そのうえで、何がどう変わってきたのか、何が足りないのか検証をしましょう。目標を達成するには、各組織が条例を意識して、達成しないといけないという強い決意を共有して計画を推進することが重要ではないかと思う。 数値目標が、基準値より悪化しているのは論外である。</p>
<p>男女共同参画については、すでに若い人たちは特別に何かすることではなく、「そんなことが必要か」ということが言われ始めている。中高齢者は、男女平等ではなく苦労した世代だが、少しずつ改善は見られていると実感する。しかし、今の若者の男女共同参画それって必要?の意識は、多くの犠牲の上に成り立っているということを忘れないでいただきたい。引き続き、社会全体で男女共同参画の機運を高める必要があると思う。</p>
<p>従前は、ややもすれば弱者(女性)の差別解消施策と捉えられていたかもしれない男女共同参画施策だが、今日においては、移住促進施策、労働人口の確保といった様々な社会課題の解決と密接にかかわっていることが明らかになりつつあると感じる。男女共同参画に関する各施策について後れをとることは人口流出、労働人口現象の加速につながるという視点からも、より一層のこ入れと重点施策の強化をお願いします。DVやハラスメントを容認しないことで一人ひとりの尊厳が保たれ、それぞれの能力が最大限発揮される元気なまち、幸せな生活ができるまちを目指し、全国に発信していただきたい。</p>
<p>男女共同参画を目指して様々な事業を行っているが、その理由、目的がぼやけているように感じる。男性だけで政策を決めることや女性だけが家事育児をすることの是非、社会発展への効果などもっと明確にすべきでは。 防災活動への女性参画により現場は改善され高い評価がされた。現状を改善するのであれば、市の事業はもっと具体的に課題解決に取り組み、目標達成すべきと思う。</p>